

県立高校入試までの 1 か月間、どのような準備をしたらよいのかを考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2)昨年の 10 月から毎月 2 回、第 2 と第 4 日曜日に下野新聞にコーナーを設けていただき、主に中学校 3 年生および高校 3 年生の受験生の皆様に向けて「入学試験のためにどのような準備をしたらよいか」というタイトルで、私の考えを述べさせていただいております。
- (3)今月は、明日 14 日に記事が載りますので、1 日早いですがその内容を少し皆様にお伝えさせていただきます。今日のお話を聴いていただき、できれば明日発行の下野新聞も読んでいただくと、勉強のやり方に役立つことがあると思いますので、よろしくをお願いします。
- (4)今回のテーマは、「栃木県の県立高校の入学試験の準備をどのようにしたらよいか」です。この CRT 栃木放送は、栃木県内だけでなく、群馬県や茨城県、埼玉県にもお聴き下さっている方がいらっしゃると思いますので、各県の県立高校入試の参考にしていただければと思います。

2. 県立高校入試までの 1 か月間、どのような準備をしたらよいのかを考える

- (1)栃木県の県立高校入試までは 1 か月を切りました。残り 1 か月間でどのような準備をしたらよいのでしょうか。
- (2)これまでも繰り返しお話してきましたが、一番お勧めすることは、今までの県立高校入試で出題された問題（過去に出題された問題、つまり過去問）を最低でも 5 年分、時間を守って解いてみることです。できれば 10 年分解くとよいですね。これは、大学入試でも同様です。既に多くの大学で入試が終わってしまいましたが、最低でも 5 年分の過去問をとりあえず時間を守って解いてみるのが一番大事です。
- (3)5 年分から 10 年分の過去問を時間を守って解くと、科目ごとによくできる問題とあまりできない問題とがはっきりわかります。このできる問題とそうでない問題とを自分の力ではっきりさせることはとても大事なことです。

- (4) はっきりさせてどうするのかというと、よくできる問題での得点を確実にすることが一番です。よくできる問題でも間違えてしまうことがありますので、過去問の中でよくできた問題を5～10年分まとめて印を付け、同じ問題を5回以上やり直す、できれば10回以上やり直すことをお勧めします。
- (5) なぜ過去問の中のよくできる問題を5～10年分、1問につき5～10回やり直すことがとても大切なのかというと、問題を見た瞬間に正解がパッパッと出てくる問題が多ければ多いほど、難しい問題に時間をかけられるからです。できる問題を見た瞬間に正解が出せるようにするとよいのです。そうすると時間短縮になり、時間があまります。このあまった時間で、時間を十分にかけて難しい問題を解くことが勉強のコツです。
- (6) では、難しい問題は どうしたらよいのかというと、自分に力でじっくりと解くしかありません。難しい問題の中にも時間をかければ解くことのできる問題がたくさんありますから、時間を短縮する意味で、よくできる問題は見た瞬間に正解が出せるようにしておくことが大切です。そのためにも、過去問を解いてよくできる問題とあまりできない問題とをはっきりさせ、よくできる問題は繰り返し繰り返し解いて見た瞬間にパッパッと正解が出せるまでにしておきましょう。そして、あまった時間を難しい問題をゆっくり解くのにあてる、これが勉強のコツ、入学試験のコツです。
- (7) 科目別にはどのようにやったらよいかをお話します。英語はリスニング(聞き取り)問題が必ず出ますので、不得意な人は過去に出題された5～10年分のリスニングの本文の意味を十分に理解した上で、その音読練習と単語の書き取り練習をするとよいでしょう。聴いてわからないのは、よく読めず、また、1つ1つの単語・語句の意味がわからないからです。問題集を見ると、過去に出題された問題の本文が全文出ています。それを使って、まずは意味がきちんとわかるようにし、次によく読めるようにします。できれば、1つ1つの単語が正確に書けるようになるまでにするとういいます。単語・語句の意味がよくわからない、よく読めない、よく書けないというものは、聴いてもわかりません。ですから、上記の方法をぜひ実践してみてください。
- (8) 国語には必ず作文が出ます。これも、過去に出題されたものを用いて練習して下さい。同じ課題について5回あるいは10回と書いてみるのが大事だと思います。漢字の書き取りも必ず出題されますので、中学校で習う基本的な漢字はすべて書けるようにしておくとういいます。
- (9) 社会は、重要事項の意味をよく理解した上で、言葉の意味を正確に覚えるようにします。これには音読が有効です。重要な語句は漢字で書かないと減点されることがありますので、書き取り練習をすることも大事です。
- (10) 理科は、計算問題の出る分野については5～10年分の過去問を5回以上解いてみて下さい。数学は、よくできる問題だけでよいですから、5～10年分の過去問を5～10回やり直しましょう。このような方法で、入学試験の準備を進めていただきたいと思います。

4 . おわりに

今日は、明日 14 日の下野新聞に掲載される、私が書いた高校入試合格の秘訣の 1 つである「入学試験に向けての準備の仕方」について、1 日早く皆様を紹介させていただきました。新聞の記事もぜひお読みになって下さい。よろしくお願ひ致します。

- 2010 年 11 月 18 日 林明夫記 -